

新田祐克

西野花

(画・佳門サエコ)

魚ともみ

環レン

小池マルミ

羽柴みず

東野海

いさき李果

安曇もか

芥川もみじ

真枝真弓

俺に愛

されたら、逃

げられないと思え。

ア
ラ
ブ

特集

オール読みさしり

b-BOY

キキキキキ



C O N T E N T S

アラブ特集

羽柴みず	アラビアン・ポルノ	1
東野海	漆黒の王	37
いさき李果	毒と蛇	59
環レン	シークと踊り子	85
西野花(画・佳門サエコ)	ソムサン~海外事業部の大富豪~	119
魚ともみ	いつも2人一緒にね? 壮一編	135
安曇もか	小夜啼鳥に花飾り~ナイトメア~	159
真枝真弓	わがまま坊ちゃんのはじめてのお仕事	191
芥川もみじ	Sultan	215
小池マルミ	盗まれた盗賊	231
新田祐克	デザートローズ	267
次号予告		291
ライターズコメント		293
表紙	新田祐克	

装丁 橋本清香 (NARTI:S)
レイアウト CoCo.Design 柴崎結佳 鈴木哲也
NARTI:S リブレ出版デザイン室

本作品は紙版刊行物を電子書籍化したもの(デジタル版)であり、掲載されている情報は紙版出版時点のものです。
なおデジタル版は一部紙版と異なる仕様がございます。

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件等とは一切関係ありません。

本書の一部、あるいは全部を無断で複製複写(コピー、スキャン、デジタル化等)、転載、上演、放送することは法律で特に規定されている場合を除き、著作権者・出版社の権利の侵害となるため、禁止します。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内で利用する場合であっても一切認められておりません。

b-BOY
キチク
K I C H I K U

刺青ではない
愛妾の刻印だ


特殊な
ヘナタトゥーでな
一夜明ければ
すぐに消える

愛妾って…
俺は男だぞ
何を言って…


瀬川 蒼生

調べさせて
もらった


日本の
官能小説家だな



陶器のような
滑らかな肌だ…

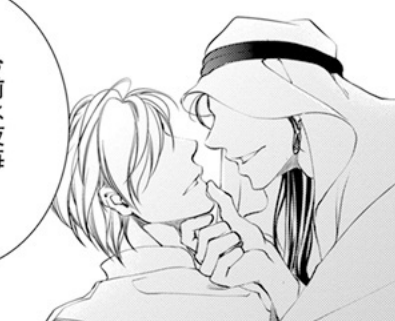


情欲にまみれた時
どれほど美しい
色に染まるのか
楽しみだな



男相手に…
まさか
本気か!?

…



官能小説家
瀬川蒼生よ

お前は夜毎
私に寝物語を
紡ぐのだ

—己の
身体を使ってな

飽きれば最後
その脚を
今度こそ頂く

…コイツ

さあ
千夜一夜の
始まりだ

そのつもりで
俺を
助けたのか…!!

あ…あ…

………

b-BOY
キチク
K I C H I K U

b-BOY
キチク
K I C H I K U

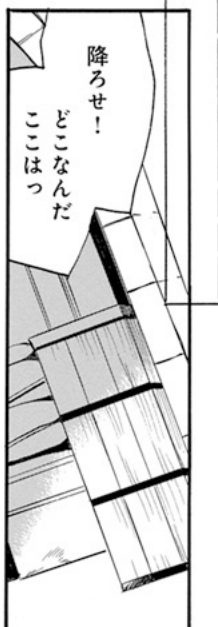




嫌な思いを
させて
しまったな



だから
詫^わびに私^わが
おまえを
どれほど
愛^めでているか
皆に教えて
やろう



降ろせ!

どこなんだ
ここはっ



往生^{せいじ}際の悪い
斎^{さい}への仕置^{しち}きも
兼ねてな

商人の
身体と持参品を
調べる間だ



先程のボールの
残りもある上
隣には人もいる

密談が出来ぬよう
壁も薄いしな
必要な条件が
すべてそろっている

なんのです？



おまえに私の
誠意を伝える
場としてだ



この蛇の血を
我が主おまごがご所望だ

古傷に効くという
話らしい

…気が
知れねえな

お前は
もう奴隷どれいじゃ
ないのだろう

なのにいつまでも
王族に使われるなんて
理解できん

解放されて自由身分を
得たとして
強者に保護されなければ
生き難がたい

…イツザ、お前は
戦争捕虜はりよだったな

先の戦で
そこそこ名を響かせたと
聞いたが

すっかり
毒を抜かれたか

まるで
その蛇のようだな

…この蛇はまだ
毒を抜いて
いないが

そういう事じゃ
ねえよ

…何度も
問われた事だ

お母
『己を痛めつけ 奴隷とした主を 殺したいと思わないのか?』
『外界で暮らす自由は要らないのか?』

戻りました

—しかし
答えは一つ

遅かったな

そんな自由よりも

もっと欲しい自由がある

それが例の蛇か？
見せてみる

まだ毒を
抜いておりません
お近づきに
なりませんよう

それより、先ほど
官人が見えていた
ようですが

国境近くが
ゴタついている
そうだ

もしもの際は
お前を連れて行く
良いな

：貴方の戦いを
再び見られるのならば
喜んで

：よくよくお前は
おかしな奴だ

b-BOY
キチク
K I C H I K U

「シークと踊り子」環 レン

シークと踊り子

俺は、怖ろしい。

あなたの俺の体を、心を

虜ろうとする、その瞳が…



Info 1

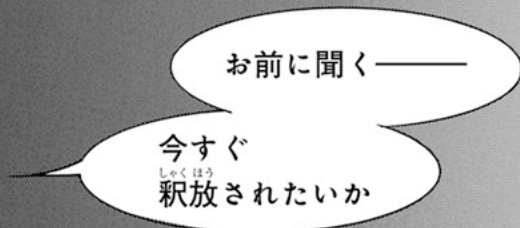
環レンの最新刊コミックス
9月10日発売予定!
ビーボーイコミックス「二人のマハラジャ」
白い王と黒い王、二人の王に愛される
日本人青年の官能ラブ!!

Info 2

環レンが描く、砂漠の王の
恋物語はこちら!
「炎の砂」「熱砂の鎖」
どちらもビーボーイコミックス
大好評発売中♥

環レン

Wren Tamaquis presents



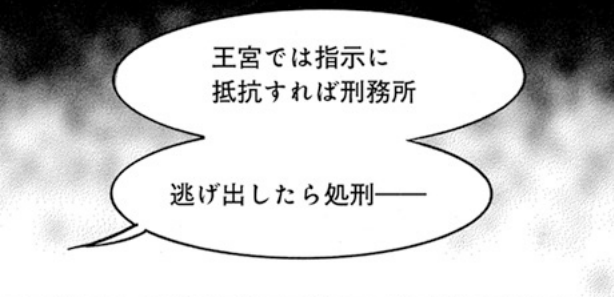


ダ…ダンサー…!?

っ…でも俺
ダンスの経験なんか…



釈放の条件は一つ
王宮で余興の
ダンサーを務める事だ



王宮では指示に
抵抗すれば刑務所

逃げ出したら処刑——



やるのか
やらぬのか

選ぶのはお前だ

むせかえるような花の香りを胸いっぱい吸い込んでしまい、頭がくらくらする。

そこは浴室というにはあまりに豪奢で美麗だった。見たこともないような形の調度品が品よく置かれて、一定の秩序を保ちながらその絢爛さを誇っている。

黒木浩は、見知らぬ豪邸で酔っ払ったまま風呂に入っていた。広い浴槽は、男が二人入ったところでちっとも狭さを感じない。浮かんでいる白い花は何だろうか。

後ろから浩を抱いている男は、僅かな外国訛りを残し耳元で陸言を囁いている。

そうだった。自分はずき合っていた男に振られて、仕事もろくにできず、成り行きに流されるままこの屋敷に来たのだ。

浩はカイゼル・コーポレーションの総務部三課、通称『ソムサン』と呼ばれる課に属している。

ソムサンとは、社内における従業員の精神的ケアと褒賞を目的とした秘密の部署であり、その業務内容はセックスを主としてしている。

統括には社長令息である逢坂環があたり、浩は彼の下で働いていた。

浩は学生時代から成績は悪くなかったが、男運が悪かった。つき合う男は大抵が浮気性だったりDVをする男だったりして、いつも辛酸を嘗めていた。

そしてつい先日までつき合っていた男にも案の定浮気をされて振られてしまった。

——なんで俺なんかソムサンに配属されたんだろう。

統括である逢坂はそれは華のある美しい男だ。彼が相手なら

ば、きつと誰であろうと悦ぶに違いない。だが自分は、どこか暗くて相手をいい気分にはできないのだと思う。だから何度も振られるのだ。なのに惚れっぽいのか、しょうこりもなく何度も恋に墮ちる。この恋愛脳には、正直自分でもうんざりしているのだ。

「君は人より痛みを知っている。だから、きつと人の痛みに寄り添う事ができる」

これは浩がソムサンに配属された時に逢坂に告げられた言葉だ。

本当にそうなのだろうか。

自分ではそんなふうに思った事など一度もない。むしろ、人の気持ちかわからないからこんなに何度もひどい目に遭うのだと思う。

今日だって、本当はちゃんと仕事をしなくてはならなかった。浩は逢坂から指示を受け、ソムサンとしての業務のために、都内でもハイクラスの間人ばかりが集まるバーへと赴いた。

だがその時浩は恋人に振られたばかりで、とても仕事ができる状態ではなかった。こんな時でも、逢坂であれば私情を殺して他の男を癒すだろう。だが浩には無理だった。

浩は、経済的にあまり恵まれているとは言えない家庭に生まれた。

母親は父親と別れ、女手ひとつで浩を育ててくれたが、完璧主義の母は父親がいなくても恥ずかしくないようにか、非常に厳しく浩を育てた。

忙しい母に、もっと遊んで欲しいとねだったわけではない。

ただ、一日一回でも、優しく抱き締めて欲しかっただけだ。

そのせいか浩はぬくもりに飢えた子供となり、思春期になって初めて同じ学校の先輩とそういつた関係になった時、ただひたすら嬉しいと思つたのをほんやりと覚えていた。だが結局は都合のいい存在になつただけなのだ、今なら理解できる。

それでも、浩はどうしたらいいのかわからない。

求められれば嬉しい。セックスは嫌いじゃない。少なくともその間だけは自分が必要とされていると思えるから。

だから逢坂に声をかけられ、ソムサンの仕事についた時は嬉しかった。こんな自分でも、誰かに必要とされている。けれどやっぱり、現実はうまくいかなかった。

浩は結局、男に捨てられてしまうのだ。

そんな気持ちのままでもう一度行った浩は、ありえないペースで杯を重ねてしまった。

そこに現れたのが、今、浩を抱いている男だ。

彼はさぞ困惑しただろう。

何しろ、自分が接待されるつもりでその場に行つたら、当の担当者が酔いつぶれていたのだ。

相手には今回事前に自分の画像データを送っていたから、浩の顔は知っていただろうが、その写真と実際の泥酔状態な浩をよく一致させてくれたものだと思う。

本来ならば彼の話を聞き、その心の奥にあるわだかまりを解かしてやらなければならぬ。なのに浩は自分が荒れるにまかせて、彼の話をろくに聞いてもいなかった。この屋敷に来たのは、接待の一環というよりは、単に酔いつぶれた浩を置いて帰れなかつただけだろう。まったくこれではソムサン失格だ。

逢坂から送られていた資料にあった男の名前は、アドリー・バシール・ラジャフ。

中東の国からカイゼルに向向で来ているとの事だった。親族がいくつもの企業を経営していて、彼もまた、若くしていくつかの会社を持つている。逢坂と一緒に、他人に必要とされる人間だ。

——でも、いい。

今、こうして彼が自分を抱いているのならば、たとえ一時の欲望であっても自分が必要という事だ。

しよせん自分に人を癒すなどという事ができるはずがない。愛されないと駄々をこねている、自分はそれだけの人間なのだ。

「——何を考えている？」

「あつ」

後ろから胸の突起を摘まれ、身体の中心がきゅん、と疼く。

湯の中に入っている男の指は、浩の身体のあらぬところを探り、悪戯を仕掛けていた。

「上の空だなんて、いけない子だ」

「あ……っ、ごめんさ……っ」

まるで浩の感じるところを知っているかのような指の動きに、湯の中でびくびくと身体が震える。

「もっと気持ちよくしてあげれば、私の事だけしか考えられなくなるかな？」

たとえ一夜の事でも、その時は相手を恋人だと思つて振る舞う事。

逢坂から教えられたソムサンの心得だ。

b-BOY
キキク
K I C H I K U

会社設立
おめでとー!!!





……
いい雰囲気だな……
あの二人

オレ邪魔だったかも……

ギョッ



私
もう行くわ

今夜の8時
忘れずに
来なさいね

未緒^{みお}

110

もちろんです
楽しみにしています

カッ



おお：
サラデインでは
ないか！

ご無沙汰を
致しておりました

故郷に帰った時くらいは
長殿にご挨拶を
しなければと
参上致しました

息子を忘れる親があるか
サラデイン！



何人の妻に
何人の子がいるのか…

自分に何人の兄弟が
いるのかなど
把握してもいないし
興味もないが…

またすぐに国外へ出るのか
忙しいことだな

それでもお前は
こうして顔を見せて
くれるというのに

ニダールのやつときたら

ニダール…





また男娼館にでも入り浸っているんじゃないか？

ああ！あの店で言い争っていたと聞いたぞ

恥ずかしい男だ



最近目をつけた男娼がザイードに横流しされたらしい

最近…？あの東洋人か…？



いつか殺し合いに発展しかねんぞ

ああそれはまずいな

あの二人の仲はもとより最悪だったからな



サラディン？

あ…ああ何番目の兄だったかな？

殆ど国内にいないお前には興味もないだろうよ！

こゆい、か、おぼん。

ザード様

今宵もお呼び頂きました
ありがとうございます

おお、待ちかねたぞ

ではまた後ほど
いつものように
迎えに参ります

お楽しみ下さい

おい店主！
代価を支払うぞ

ザード様は
最近あの子が
お気に入りだな

言葉も解らないん
だろう？
よほどイイのかね

しかし他国では娼婦もいるだろうに
あれは元から男娼だ

それにしてもあの容姿は
めっけもんってやつだな！

男娼は売れるうちに
稼がないとな…

ほ

店主…

俺が望んだ
あの男娼をサーイドに
送り届けてきたのか!!

ひ…っ

大変です!

何事だ?

ニダール様が
大剣を持って
サーイド様の元へ…!!



b-BOY
キチク
K I C H I K U

おおー

でかい
すごいなー!

熱砂の国から来た

じゃじゃ馬坊やの

しつけ方って…!?

わがまま坊^{ぼっ}ちゃん^の はじめてのお仕事^{しごと}

まえだまゆみ

真枝真弓

コミックス「ヘンタイ彼氏」絶賛発売中!





例のアラブの
石油王の息子だ
今回とりひきで
一緒に日本に来てる

ボディガード
も兼ねて喜慈に
面倒みて
欲しいそうだ



え…
俺が子守り？



いやでも俺は
ボスのボディガード
であつて…

そのボスの
言う事が
きけねーのか

俺ガキは
どうも…

おまえも
働きつめだろう
休みみてーな
もんだから



何の為の
「ボディガード」だよ

…

お父様すしや
はしねえだろ



絵にかいた様な
金持ちボンボン息子
ルトフ・ムスタールくん

ホテル飽きた
外出たい

いやでも外は
あぶない
(めんどくさい)
ので…

にも関わらず……

昨夜も王に
召されたんだって？

ナディールだったっけ
君は新入り
だからね

ただの
味見だよ

王は

奴隷の中で
毛色の違った者が
お好みなんだ

遊び飽きてるし

君みたいに
着飾らないタイプは
ここでは珍しい
からね

わざわざ
そんな事を言いに？
暇だな 掃除しろ

今はこうして
奴隷として
生きながらえている

そういうそっけない所も
王は面白がって
いるんだろうね

君ものぼせ
上がらない事だ



……
今日もまた
夜のお勤めだ……

コホ
コホ



これ
王からの贈り物なんだ

王の想い入
一人の人の
証として



君には
無縁の話だね
失礼



……
はい



服を脱げ

自分で勃たせて
見せろ

b-BOY
キチク
K I C H I K U



…ん？
なんだ
この人間じゃ
ねえのか

この家の
坊ちゃんかと
思ったせ



しまった…!?





気に入ったぜ

な…なんだよッ!?



ちりっ



時間切れ
みたいだし
丁度いい



え…!?

タリッ

ようやった！
イスハーク

閃光の鷹の名に
恥じぬ電光石火の
戦振り


アルバノの様な
小国が慌て
ふたためいて降伏
するのにも
無理はない

持ち帰った
貢物も中々：
一番の輝きは
その王子だな

まさに
生きた宝石
天上の花よ


父上
勝ち戦の褒美
おねだりしても
よろしゅう
ございますか

おお
新しい所領か
位か
何でも申せ




高貴なる
奴隷を
賜りたい

ガッ
ワッ



高貴なる奴隷
とは……まさか
その者を
指しておるのか



長旅の間に
この花の蜜を
何度も吸うて
しまいました



ありがとうございます
ございます



故に責任を持って
この者の幽閉は
我城の後宮をもって
行いたく思います



：なんと：王は
アルバノの王子の
噂を耳にして以来
その到着を心待ちに
していたと言うのに

しかし：既に
子の手がついて
いる者を
身受けては
王の沽券に関わる



ううむ…！
分かったわ！
好きにせえ！！

b-BOY
キキク
K I C H I K U